

儀礼が結ぶ絆：オリエンテーションキャンプでの 検討

○横部朱慧・須山巨基・中分遥
(安田女子大学心理学部ビジネス心理学科)

目的

儀礼は社会的な絆を深めることが知られており、同期的な動作(e.g., 共同で歌う、踊るといった行動)が社会的絆を深めることが指摘されている(Whitehouse, 2021)。学校行事でも、親睦を深めることを目的としたオリエンテーションキャンプ(合宿)が行われることがある。内容は様々あるが、儀礼と同じように、同じ作業や同期的な動作を行うことがあり、これらによって社会的絆が高められ、親睦が深まることが予測される。本研究では、国内の大学にて開催されたオリエンテーションキャンプに参加することが、絆を高めるのか実証的に検討する。オリエンテーションキャンプとは、新入生歓迎として開催されるものであり、これには集団行動や歌唱といった儀礼的なプログラムが多く含まれている。本研究では、Swann et al. (2009)のアイデンティティ・フュージョン尺度を用いて、オリエンテーションキャンプ(合宿)の事前、事後での集団の社会的絆の変化を比較した。

方法

参加者 大学の新生歓迎企画の合宿に参加した新生入生を調査の対象とした。調査は2度行われ、両方参加した者を分析の対象とした($N=30$)。すべての参加者は、web上のコンセンサスフォームに同意した。**手続き** 1度目の調査は合宿前に行われ、Googleフォームで作成された質問票のリンクを新入生に対して送信し、参加者は各々リンクから回答した。2度目はプログラム終了後、合宿所内にて行った。質問票は1度目と2度目は同一のものを使用した。匿名性を担保するため参加者にはニックネームを決めてもらい、1度目と2度目の調査にて同一のニックネームを使用するよう指示した。調査票はニックネームをもとに照合した。Googleフォームでは、最初にニックネームおよび性別・年齢といったデモグラフィック項目について尋ね、その後、各尺度について尋ねた。

実験素材 Swann et al. (2009)のアイデンティティ・フュージョン尺度を用いて、調査に参加した新生入生

自身と①所属大学、②参加した他の新入生、③上級生、④教員との社会的親密度について7件法で測定した。また、これ以外にも短縮版コミュニティ意識尺度(石盛, 2012)についても測定したが、紙面の都合上、この詳細・結果については省略する。

結果

イベントの事前と事後で、「大学」「新入生」「上級生」「教員」とのアイデンティティ・フュージョンの評定値が変化したのか t 検定によって検討した。その結果、すべての対象について事前と事後で有意な差がみられた: 「大学」(事前, $M=3.23$, $SD=1.61$; 事後, $M=4.5$, $SD=1.76$; $t(29)=4.54$, $p<.001$, $d=0.83$)、「新入生」(事前, $M=3.53$, $SD=1.46$; 事後, $M=4.87$, $SD=1.43$; $t(29)=4.97$, $p<.001$, $d=0.91$)、「上級生」(事前, $M=2.77$, $SD=1.07$; 事後, $M=4.77$, $SD=1.48$; $t(29)=8.03$, $p<.001$, $d=1.47$)、「教員」(事前, $M=2.17$, $SD=1.15$; 事後, $M=4.17$, $SD=1.49$; $t(29)=7.49$, $p<.001$, $d=1.37$)。これらの結果は、一貫してオリエンテーション合宿が社会的絆を高めることを示すものである。

考察

本研究では、オリエンテーションキャンプは社会的絆を高めるという仮説を立て、アイデンティティ・フュージョンを用いた質問紙調査を行い検討した。その結果「大学」「新入生」「上級生」「教員」の全ての項目で参加前と比較し、参加後の評定値が高まるという結果が得られた。この結果は、学校行事で行われるオリエンテーションキャンプには社会的絆を高め、親密度が深める機能があることを示すものである。

なお、本調査に加え合宿中に行われた各プログラムに対するアンケート調査(効果測定)も行っている。当日の会場では、これらの結果を合わせオリエンテーションキャンプにおいてどのようなプログラムが社会的絆の形成を促進するのか議論したい。